

HIを支える白衣の力
第11回 旭川リハビリテーション病院

HI (Hospital Identity)は、病院の文化や特性・独自性を高めるうえで重要な、ブランディング戦略です。そのHIを高めるために白衣がどのような力を発揮するか。この連載では、デザイン性だけではなく白衣へのこだわりをお伝えしていきます。



ユニフォームのカラーは「職種」によって決められており、声のかけ間違いも少なくなった

院内を彩る「明るさ」と「わかりやすさ」
どちらも実現したアースカラーのユニフォーム

どんな色のユニフォームなら空間になじみ、明るい雰囲気生まれるか。そして、どうすれば患者さんにとって職種の違いがわかりやすいか。そうした思いのもと、アースカラーのユニフォームを採用した旭川リハビリテーション病院にて、鈴木郁子看護部長にお話をうかがいました。



鈴木郁子
看護部長

院内の雰囲気を明るく
するため、「最多職種」に
やさしい印象のピンクを採用

このたび採用したユニフォームでは、職種ごとにカラーを分けています。例えば女性看護師はピンク、男性看護師はオリーブ、リハビリテーションスタッフはネイビーといったかたちです。採用にあたってはさまざまなカラーのものを試着し、肉

眼で見るほか写真に撮るなどして、「外部の人からどう見えるか」ということを念入りに検討しました。今回は、当院でも最も人数の多い職種である女性看護師がピンクのユニフォームを着用することで、院内の雰囲気が明るくなることを考えました。

「ピンクのユニフォーム」とだけいうと、鮮やかなピンクがイメージされ、人によっては違和感を抱くこともあったようですが、今回のユニフォームは落ちついた印象のアースカラーで、スムーズに受け入れられました。

職種ごとにカラーを配したことで
間違いが減少し、やりとりも円滑に

以前は職種を問わず、白衣タイプの白いユニフォームを着ていたため、看護助手やリハビリテーションスタッフが看護師と間違われることも多くありましたが、今回のユニフォームを導入して以降、そうした間違いも少なくなりました。職種どうしで違いがわかりやすくなったことも重要ですし、特に患者さんは看護師に用事を頼むことが多いため、「この色の人は看護師だ」とひと目でわかり、声をかけやすくなったことは大きなメリットです。

実際に、当院に通院している患者さんや他施設からの受診者からも、カラーが変わったことに気づいていただき、「わかりやすくなった」という声を受けています。

病院のやわらかなイメージと
業務で求められる高い機能性を両立

スタッフの業務においては、ユニフォームの色で職種を判断できることで、連絡や情報共有が円滑になったと感じられています。また、患者さんからスタッフに向けて、「カラーがたくさんあって、明るい感じになりましたね」など、新しいユニフォームと院内の雰囲気について前向きな意見もいただきました。

動きやすさや通気性のよさ、水や汗の乾きやすさなどの実用性も以前に比べて向上しています。患者さんから見ただけのわかりやすさと雰囲気のよさ、スタッフにとっての快適さ、いずれにおいても高い評価を得ています。



ユニフォームも空間を構成する大切な要素。看護師のカラーを穏やかに明るいものにする事で、院内全体のイメージチェンジにつながった

以前からの取り組みとして、左側の袖部分にスタッフの名前(読みがな)を刺繍している。患者さんへの自己紹介や、スタッフどうしの連絡にも役立てられている

すずき



リハビリテーションなどで患者さんの身体を動かす際などにも無理のない動きやすさ、着心地を実現



異なる職種どうしでも呼び止めやすくなり、情報伝達等も円滑化・活性化してきている

採用商品：アースソングシリーズRF-5512



旭川リハビリテーション病院

1989年に開院。理念として「リハビリから予防まで」を、基本方針として「一度、病に倒れても必ず在宅や地域に戻っていただく」ということを掲げ、地域のかかりつけ病院、リハビリテーション病院として地域医療に携わっている。リハビリテーション科としては北海道でもトップレベルの人員配置のもと診療を行っているほか、保険医療機関などの諸指定や、日本リハビリテーション医学会研修施設などの学会認定も複数。2007年には透析センターを開設するなど、地域に提供する医療の幅を広げ続けている。
〒078-8801 北海道旭川市緑が丘東1条1丁目1-1
https://www.reha.or.jp/

ナガイレーベン株式会社

TEL : 03-5289-7891
E-mail : hp-info@nagaiben.co.jp
ホームページ : https://www.nagaiben.co.jp